

清鋼材(3448)

中国連結子会社の全出資持分譲渡で日本とタイの2拠点へ事業再編。足元は鋼材価格市況が堅調に推移

TOKYO PRO Market | 金属サービス・加工 | 業績フォロー

BLOOMBERG 3448:JP | REUTERS 3448.T

- 2022/3 通期は、売上高が前期比 41.5%増、営業利益、経常利益、当期利益は黒字転換。堅調な鋼材市況と受注回復が追い風となった。
- 連結子会社の中国・昆山清陽精密機械の全出資持分を譲渡し、中国事業から撤退。日本とタイの2拠点へと事業再編を行った。
- 足元は鋼材価格市況上昇継続が追い風になると期待される。中長期的な競争力強化に向けて設備投資増強が必要とされよう。

What is the news?

5/27発表の2022/3通期は、売上高が前期比41.5%増の45.49億円、営業利益が前期の▲3236万円から1.62億円へ、経常利益が同▲2898万円から1.54億円へ、当期利益が同▲2392万円から9271万円へ黒字転換だった。なお、連結子会社だった中国の昆山清陽精密機械の全出資持分を今年1月に譲渡したことに伴う特別利益54百万円を計上した。

鋼材加工事業の主要市場である建設機械業界および産業機械業界の需要が堅調に推移。建設機械業界では、世界的に油圧ショベルの需要が拡大基調となり、産業機械業界では、半導体や樹脂材料等の部材不足による前倒しでの受注増加や生産増も加わり好調に推移した。

セグメント別の通期業績は以下の通り。①日本は、売上高が前期比12.6%増の19.90億円、セグメント利益が前期の▲2700万円から▲5799万円へ黒字転換。建設機械および産業機械の市況が堅調に推移し、新型コロナウイルス感染拡大の影響で減少していた受注が回復した。②中国は、売上高が同71.8%増の22.81億円、セグメント利益が同8.0倍の9285万円。③タイは、売上高が同2.1倍の3.23億円、セグメント利益が前期の▲1703万円から1118万円へ黒字転換。中国、タイともに新型コロナウイルス感染拡大の影響により減少していた需要が回復した。

How do we view this?

新型コロナウイルス感染拡大の影響を合理的に算定することが困難として2023/3 期会社業績予想を未定とした。更に、中国の昆山清陽精密機械の全持分譲渡に伴い、主力の鋼材加工事業は、①清鋼材、②スガスティール・タイの2拠点へと事業再編された。中国セグメントが無くなることによる減収の一方で、コスト削減によるプラスの影響も想定されよう。

日本銀行が発表する国内企業物価指数によれば、鉄鋼価格の前年同月比伸び率が昨年5月以降今年7月まで20%台後半~30%の高水準で推移と追い風が継続している。そのようななか、中長期的な競争力強化に向け、同社の生産方針である高品質、多品種少量生産、および短納期の達成のため、寸法精度を高めた製造設備、一品生産に重点を置いたCADシステムと光ファイバーにより連結されたレーザーマシン配備など設備投資増強が鍵を握ろう。

業績推移

事業年度	2020/3	2021/3	2022/3	2023/3F
売上高(百万円)	3,736	3,215	4,549	-
経常利益(百万円)	-113	-28	154	-
当期純利益(百万円)	-204	-23	92	-
EPS(円)	-684.79	-79.96	309.79	-
PER(倍)	-	-	11.30	-
BPS(円)	1,631.40	1,590.76	1,451.55	-
PBR(倍)	2.15	2.20	2.41	-
配当(円)	0.00	0.00	50.00	-
配当利回り(%)	0.00	0.00	0.59	-

(出所: 会社公表資料をもとにフィリップ証券作成、F=会社予想)

フィリップ証券株式会社

配当予想(円) - (会社予想)
 株価(円) 3,500 2022/8/24(基準値)

会社概要

1966年に前社長の星野清士氏が鋼材および非鉄金属等の仕入販売を目的として東京(八丁堀)で設立後、2000年に本社を新潟県糸魚川市へ移転。主に鋼材の加工(切断、開先、折曲、穴明、溶接、塗装)および販売を行う。2019年9月26日にTOKYO PRO Marketへ上場を果たした。

同社グループは日本(清鋼材および清エステート)、タイ(スガスティール・タイ)の2拠点で事業を行っており、各地域において現地法人が包括的な戦略を立案し、事業活動を展開する。中国の昆山清陽精密機械は2022年1月に全出資持分を売却した。

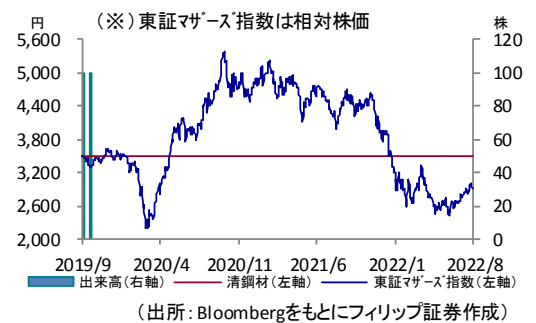
主力の鋼材加工事業の内容は以下の通り。

①清鋼材は、主に小型の建設機械および産業機械用の鋼材部品加工を行っている。

②スガスティール・タイは、主に中型の建設機械の鋼材部品加工を行い、日系建機メーカー向けに厚板溶断製品を生産している。

③その他の事業として、本社工場屋根に太陽光パネルを設置して太陽光発電事業を行うほか、第二工場に無菌室の「清タファーム」を設置して農業生産事業を手掛けている。

企業データ



主要株主(2022/6/30)

株主名	(%)
1. 星野 陽一	43.00
2. 東京中小企業投資育成株式会社	30.00
3. 星野 美智子	14.00
4. 星野 大輝	9.33

(出所: 会社公表資料をもとにフィリップ証券作成)

リサーチ部

笹木 和弘
 kazuhiko.sasaki@phillip.co.jp
 +81 3 3666 6980

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL: 03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: 公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト 笹木和弘

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平 14.1.25」に基づく告知事項>

1. 本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。
2. 当社は、東京証券取引所の定める「特定上場有価証券に関する上場規程の特例」(以下「特例」)第102条の規定に基づき、発行会社の担当 J-Adviser に就任する旨の契約を締結いたしております。また、当社は、「特例」第135条に定める流動性プロバイダーであり、発行会社株式の円滑な流通の確保に努めるほか、流動性プロバイダーとしての義務を負っています。